

GakuNin RDM の外部ストレージとして接続することで Nextcloud がもたない GakuNin RDM 固有の高度なデータ管理機能を利用できるようにし、システム開発にかかる費用を最小限に抑えつつ、導入期間を短縮した。

QRDM から見た際の GakuNin RDM への期待としては以下の点が挙げられる。

➤ 学外からのアクセス手段の確保

QRDM では研究データに対するセキュリティ向上のため、システムへのログインや共有データへの直接アクセスを学内ネットワークからのみに限定し、学外からは例外的に GakuNin RDM を通じたデータへのアクセスのみ可能とした。

GakuNin RDM には QRDM を学外から利用するためのインターフェイスとしての役割を期待している。

➤ 学外の共同研究者とのデータ共有

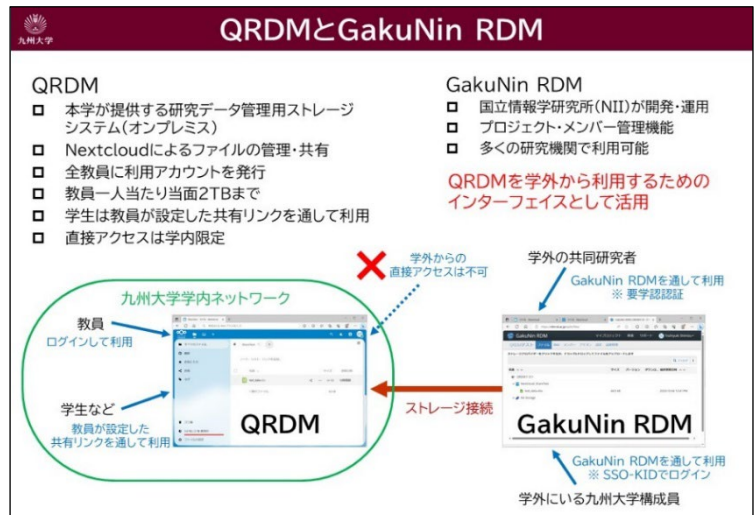
QRDM を共同研究に資するため、GakuNin RDM 導入機関の更なる増加に期待する。共同研究のパートナーとなる民間企業や海外研究機関にも拡大することが望ましい。

➤ プロジェクト単位の管理による研究データの整理

研究公正のため研究データの 10 年保存が必要とされているが、QRDM のストレージ領域には限りがあり、研究者は他のストレージも併用せざるを得ない。その結果、多種多様なストレージが乱立し、時間の経過とともに研究データが所在不明になりがちである。その点、GakuNin RDM は複数の外部ストレージを接続するアドオン機能を備え、散在するデータを一か所に集約することができる。研究者は GakuNin RDM を用いてプロジェクト単位で研究データを管理し、各プロジェクトにストレージを関連付け、メタデータを付与して適切に整理することで、研究データを探しやすくなり、その喪失を防げる。

また、GakuNin RDM では、ストレージ上のデータを対象に Python や R のコードを実行可能なデータ解析機能や、次世代のデータ管理計画(DMP)とも位置付けられるメタデータ管理機能など、高度な機能が提供される。さらに、これらの機能を発展させて研究データの管理状態を機械的に検証するというデータガバナンス機能の開発が進められている。データの質の保持や研究活動の効率化に向けた様々な機能がさらに充実し、将来 QRDM との連携により研究 DX 支援に不可欠の効果的な基盤となることを期待する。

なお、本学では QRDM を GakuNin RDM の機関ストレージではなく外部ストレージとして導入した。当初は機関ストレージとして Nextcloud for Institutions の導入に積極的だったが、実現するには学生等も含んだ全構成員分のアカウントが必要と分かり、Nextcloud のライセンス料金が高額なためやむなく計画を変更した。現行の外部ストレージとして接続する運用では、GakuNin RDM におけるタイムスタンプ機能の利用には注意が必要な状況であり、自動でのタイムスタンプ付与は行われず、手動のタイムスタンプ付与には難がある。今後の開発に期待したい。



九州大学データ駆動イノベーション推進本部 研究データ管理支援部門 清水敏之
九州大学附属図書館 図書館 DX 支援室 芦北卓也

《参考》

- ・ 九州大学研究データ管理・公開ポリシー https://rds.dx.kyushu-u.ac.jp/research_data_policy
- ・ 九州大学研究データ管理用ストレージシステム QRDM <https://rds.dx.kyushu-u.ac.jp/qrdm>